



記入日 2015年 1月 14日

1. 概要

実践団体名	NPO 防災白熱アカデミー		
連絡先	高田至郎 090-5894-5821		
プランタイトル	紙芝居による要援護者の防災リスクコミュニケーション		
プランの対象者※1	一般、高齢者。園児	対象とする 災害種別※2	地震、津波

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】 双方向コミュニケーションツールとしての紙芝居を用いて、災害時におけるリスクを演者と少人数の観客との間で探るとともに、その対策について防災啓蒙活動を進める。特に、災害時に援護を必要とする高齢者福祉施設や幼稚園児を対象として活動を行う。紙芝居については、東日本地震時の実例をもとに、当法人で新たに製作するとともに、多くのリスクシチュエーションが想定されるので、市販の紙芝居も活用する。

【プランの概要】

- ・紙芝居の題材となる災害時や避難、生活再建について、神戸地震、東日本地震の実例を取材する。
- ・紙芝居のシナリオ、政策を行う。
- ・高齢者福祉施設、幼稚園、地域自治会などで、紙芝居を上演する。できるだけ、多くの上演機会を準備する
- ・参加者へのアンケート結果を分析して、コミュニケーションの進め方を検討する。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・参加者が楽しみながら、災害を免れる知恵をつける。
- ・高齢者、園児に関係する家族も参加する機会が多く、防災教育の広がりが期待できる

2. プランの年間活動記録 (26年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	年間実施計画の 立案	3月に実施第2回東北 震災学習ツアー	ハート通信(機関紙)発行 サイエンスフェ(昨年製作紙芝居も実施)
5月	海外の防災対策情 報入手、紙芝居シナ リオ作成	昨年12月に仙台市幼 稚園でのヒヤリング整 理	海外からの地震防災研修者受け入れ
6月	市販紙芝居も購入 NPO独自紙芝居製作 進行	漫画家と交流	仙台市仮設でiPad教室実施 生活再建のヒヤリング、交流
7月	製作進行		NPO企業会員と交流会 仙台でサイエンスフェ(地名と防災)
8月	紙芝居上演(3回)	防災クイズも実施、南 海地震がきたら、など	第3回語り部会開催(神戸市危機管理 センター共催)、甲府生涯学習講演
9月	講演、上演準備		仙台サイエンスフェ 自然災害学会で紙芝居防災教育につ いて講演、中国大学で紙芝居
10月	地震語り部の資料 収集	徳島県、阿波福井町	昭和南海地震語り部訪問
11月	報告書準備		上海世界都市会議参加(インフラ防災 紹介)、仙台サイエンスフェ(仙台市町内会 活動支援採択)
12月	上演者研修		町内会親子防災学習で紙芝居上演
1月	神戸震災20年対談 ～NPO防災教育～		水道マン震災を語る～伝えたいこと ～講演会開催、NPO活動紹介
2月			防災教育チャレンジ最終報告会
3月			

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

タイトル	第3回語り部会（紙芝居上演）
実施月日（曜日）	平成26年8月31日
実施場所	神戸市危機管理センター
担当者または講師	担当者・講師等の区分：東北被災者1名、神戸2名（語り部） 紙芝居・クイズ2名、講演者1名、座談会4名 氏名：松木・河野・大塚・嵯峨・中野・佐藤、今中 所属・役職等：大学教授3名
所要時間または「コマ数×単位時間」	14:00～17:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	1
活動目的※5	東北被災者と神戸被災者交流
達成目標	1
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講演 震災体験 音楽 座談会
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	プロジェクター、PPT、演奏ピアノ、紙芝居、クイズ用紙
参加人数	70人
経費の総額・内訳概要	15万円
成果と課題	【成果】NPOの広報、メンバーの団結、防災教育の社会への発信 【課題】参加者集め、マスコミ対応、資金
成果物	PPT、ハート通信特集号作成

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	昭和南海地震語り部訪問（資料収集）
実施月日（曜日）	平成 26 年 10 月 17～18 日
実施場所	徳島県福井町
担当者または講師	担当者・講師等の区分：NPO 会員 氏 名：高田、今中、嵯峨、河野、太田 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	17 日：9：00～17：00、18 日：9：00～20：00
プログラムの カテゴリ、形式※4	4
活動目的※5	6
達成目標	語り部学習
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	現地訪問（地域自主防災メンバーと交流、語り部ヒヤリング） 語り部ヒヤリング 報告書作成 会員配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	カメラ、ビデオ、
参加人数	5 人
経費の総額・内訳概要	1 人 3 万円（旅費）＋謝礼
成果と課題	【成果】 防災対策の実例収集 【課題】参加費用、人集め、資料整理人員確保
成果物	報告書（ハート通信）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	仙台仮設 iPad 教室（資料収集）
実施月日（曜日）	6月6～8日
実施場所	仙台卸町仮設
担当者または講師	担当者・講師等の区分：今中、高田、仮設10名 氏名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	6日：13：00～17：00、7日：10：00～15：00、8日：10：00～15：00
プログラムの カテゴリ、形式※4	2
活動目的※5	7
達成目標	パソコン技術習得
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	NTTとの講師交渉 仮設との連絡 重門への周知 学習 交流会、生活復興課題、紙芝居材題資料収集
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン 学習資料 紙芝居
参加人数	15人
経費の総額・内訳概要	12万円
成果と課題	【成果】 仮設住民との交流、防災への課題話し合い 【課題】 神戸～仙台を結ぶスカイプの利用開始
成果物	無し

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点	多様な参加対象に応じた紙芝居の必要性 打ち合わせ時間の確保 スタッフの確保 他 NPO との連携
準備活動で 苦勞した点 工夫した点	紙芝居題材資料の収集 製作スタッフの確保 紙芝居上演者の確保 資金の確保 上演者の研修
実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点	資金の確保 開催主体の確保と連携 参加者集め

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	仙台市幼稚園（菊華、白鳥）	津波避難ヒヤリング
保護者・ PTAの組織		
地域組織	明石市自治会 神戸市西区自治会	紙芝居上演
国・地方公共団体・ 公共施設	神戸市 兵庫県 大阪広域水道企業団 山梨県生涯学習センター 仙台市仮設住宅	紙芝居上演 語り部会 講演会 セミナー サイエンスカフェ
企業・ 産業関連の組合等	団体賛助会員の21企業 ポリテック協会 日本水道協会	講演会
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	神戸東灘区NPOの会	交流 意見交換
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	スマートインフラ研究会 自然災害学会 大阪産業大学 神戸大学 (財)災害科学研究所	交流会 講演 研究会

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本地震における園児の津波避難について、2 幼稚園でヒヤリングを行った。その結果、園児リスク低減に多くの教訓を得た。 ・幼稚園ヒヤリングをもとに、園児の津波避難についての紙芝居政策を行った。 ・様々な機会に、紙芝居を上演して、参加者に防災について考える機会を与えた。 ・神戸被災者と東北被災者が参加する語り部会を開催して、神戸の生活復興を語り、東北被災者の支援活動を行った。 ・NPO のサイエンスカフェ活動を通じて、多くの機会に、紙芝居も用いた防災啓蒙活動を展開した。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO の活動に参加するボランティアの確保がむつかしかった ・紙芝居の製作、演者の人手確保や研修がむつかしかった。 ・紙芝居上演対象の組織との交渉に多くの時間を費やした。 たとえば、幼稚園での上演には、市町の教区委員会との連携などである。
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、災害弱者とのリスクコミュニケーションを、紙芝居など他の手段も検討して継続して活動を行う。 ・災害の多発するアジア諸国との県警を深めて、当NPOの活動を幅広く展開する。 ・活動資金の確保が必須である。会員増強、寄付金の確保を検討する。

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

語り部会座談会

まず、今回の部会のテーマは「南海道地震に備えよう」であり、東日本震災での津波被害の映像（テレビより）を紹介し、その後、司会者の中野から南海道地震についての仕組みや想定津波などの説明を行った。

その後、座談会に移り、まず、阪神大震災で神戸にて被害の遭われた河野光江さんから、被災直後に自宅周辺の様子やその後の火災の発生など生々しい状況の説明があった。また、東北大震災の被災について仙台郊外で被害に遭われた松木弥恵さんから、近くの中学校にかろうじて避難し難を免れた状況や現在での仮設住宅での暮らしの不自由さについて話があった。さらに、現在東北大学にて現在、防災教育の重要性と地域コミュニティの連携の立場から研究を続けておられる佐藤健先生からは、学校教育の重要性と地域コミュニティの重要性などの話があった。

会場からの質問に移り、平常時からの防災備蓄や防災意識の低い地域での地域の盛り上げ方のあるり方などの質問などがあり、幾つかの活発な意見交換があった。この中で、特に地域コミュニティとしての防災の取り組みが重要であるとの意見が強調され、座談会は熱心な雰囲気のもと、阪神大震災での経験とは異なった教訓もあり有意義なものであった。



(自由記述: 1/3)

(自由記述: 2/3)

新春スカイブ鼎談（その2、防災教育）

今中 当 NPO 法人の活動テーマは、市民防災教育とライフライン・テクノロジーの共生ネットワークですが、防災教育については、東日本地震以降、行政、学校、地域、NPO、ボランティア団体などで、活発な活動が展開されています。防災教育の考え方や、将来課題に移りたいと思います。

高田 市民と事業者が防災教育の対象となります。市民にも、様々な集団があります。家庭、地域、学校、また事業分野では、産業、農業、漁業、林業、さらに、それぞれの事業も多分野に分かれます。学校も、幼稚園から大学まで知識の吸収レベルが違います。それぞれに、災害を受けるリスクがあります。それぞれに、受け継ぐべき災害教訓があり、防災知識として浸透する必要があります。しかし、知識の浸透のみではなく、災害時に、行動として生かされなければならない。災害時にどのような行動をとるかは、むづかしい選択があります。神戸の地震後には、地域社会の協同、絆が強調されました。一方、東日本地震後は、津波からの避難もあり、釜石の奇跡のように、“津波てんでんこ”で、自ら命を守る行動が強調されています。サバイバル・ギルティ（生き残った者の後ろめたさ、罪悪感）の克服も大きな課題です。NPO 企業会員には講演会・セミナー、市民には、高齢者、園児なども対象にして、サイエンスカフェが、積極的に行われています。防災教育には、紙芝居や地震メカニズム説明モデルを用いて、楽しめる防災教育を目指しています。

小池 私が京都伏見で始めたサイエンスカフェは、開催日の1週間前に数十年ぶりの大洪水が京都南部を襲ったことから、当日は大変な盛況となりました。当初は、歴史地震から地震避難のお話をする予定でしたが、洪水避難のこともしゃべる必要が出てきて、周到的な事前準備の必要性を痛感しました。

今中 昨年末には、阿波徳島に NPO の視察旅行に行きました。防災教育と言う面では、徳島県の「徳島県立防災センタ」を訪問しました。「地震動体験設備」で震度 4 弱から、阪神淡路大震災の地震を体験できる、「消火器の使い方」体験や、「火災の際の煙を極力吸い込まず避難する」体験、「風速 30m/秒の風の強さの体験、降水量 100mm/時の雨の凄さの体験」など身近な災害からどう身を守るかを体験できる設備群があり、また展示コーナーなども充実している。学生、生徒、町内会、各種団体が活用されているようです。阿波福井町語り部の皆さんの3人のお話を聞きました。昭和南海地震の津波の体験談を聞かせて頂いたが大変な迫力で、これこそ迫力のある防災学習だと思いました。

今中 ミャンマーでは防災教育はどのような状況ですか？

小池 大学では耐震・耐風設計工学などで防災工学を勉強しています。しかし、小学校で防災教育をしているわけではありません。ヤンゴンでもマニラでも、少し強い雨が降ると、道路は一面冠水し、ひどい所では腰あたりまで、水が来ます。しかし、特別なことでもなく、テレビでニュースになることもありません。市民は雨期には毎日災害と隣り合わせに過ごしているようで、そこから逃れる術も自然と身に

つ け て い る と 言 え ま す 。
しかし、地震に関しては違います。日本ほど頻繁に地震が起きる訳では無く、地震被害の経験も少なく、ニュースとして報道される機会が少なく、地震に対する危険意識はそれほど高くはありません。

海外に住んでいますと、居住している町の周りの災害危険度について、またどこに避難すればよいかなど、情報をどこでどのように入手すればよいかなど、皆目わかりません。わずかに、海外観光客向けの防災教育をどうするか、一度検討課題にして戴けないかと、思う次第です。

“高田 家庭、学校、地域、の連携が不可欠なことは言うまでもありません。我々の NPO 法人の佐藤理事は、防災教育の専門家ですが、学校が好きな子供は、勉強もよくできる、また、地域好きな子供は、災害時にも避難行動がうまくできる、と提言されています。

日本は多くの災害を受けて、災害と戦い、多くのノウハウを持っています。このノウハウを世界に展開していくことも大事です。しかし、社会経済、文化的背景が違います。神戸の教訓が東北で役だたなかった部分があるように、日本のノウハウが世界に通用しない部分もあります。楽しめる防災教育が大事ですね。

小池 防災教育の対象者が誰かによって、当然ですが、教育の仕方が変わります。東北地方では、これから何世代かにわたって、津波災害の怖さが伝えられるでしょう。この先、40、50年間は、人々の間でしっかりと防災教育が伝えられると思います。しかし、逆に50年前には大災害があったのに、現在ではそれが忘れられている所が有るかも知れません。その土地の住民に対しては、災害の危険性について注意喚起が必要でしょう。このように、場所の条件によって、防災教育をどう展開するかが変わってくることを知って戴きたいと思います。

(自由記述: 3/3)